

記入例

これはあくまで一例です。実態に即した内容を記入してください。

公益財団法人全国銀行学術研究振興財団 御中

【事務局使用欄】受付番号

【研究】助成申込書

助成コード

※太枠内の白いセルに11ポイントで記入してください。
※文字の大きさ(11ポイント)は変更しないでください。印刷時に文字が切れる場合は、行幅を広げてください(列幅は変更不可)。

記入日(西暦 yyyy/m/d)	2025/7/1	
氏名	全銀 太郎	
ふりがな(ひらがな)	ぜんぎん たろう	
生年月日(西暦 yyyy/m/d)	1985年5月1日	
年齢(本年4月1日現在)	39歳	
勤務先_大学名	全銀大学	
学部等	経済学部	
職名	准教授	
郵便番号	100-0005	
住所(都道府県から)	東京都千代田区丸の内1-3-1	
E-mail	zengin@zengin.ac.jp	
電話番号(ダイヤルイン)	03-6267-7336	
電話番号(学部代表)	03-6267-1234	
兼職の状況	※大学(他大学を含む)以外で報酬を得ている兼職(常勤)の状況を記入	
兼職の有無	あり ⇒ 下欄に社名を記入	
社名	〇〇審議会	
自宅_郵便番号	103-0000	
住所(都道府県から)	東京都中央区〇〇1-1-1	
E-mail(大学アドレス以外)	zengin_taro@gmail.com	
電話番号(携帯)	080-1234-5378	
電話番号(固定)	03-1234-5678	
本年度中の変更予定	※上記勤務先・兼職・自宅に関する本年度中の変更予定を記入	
変更予定の有無	本年度中に変更予定あり ⇒ 下欄に変更予定時期と内容を記入	
変更予定時期と内容	2025年10月から〇〇大学経済学部へ異動(役職:准教授)	
研究分野	経済分野	
研究形態	共同研究 ⇒ 下欄に共同研究者名を全員記入	
共同研究者名	甲 次郎	
助成希望額(万円単位)	100万円	※単独研究100万円以下、共同研究150万円以下
研究テーマ	日本経済における～が与える影響	
他機関への重複応募	※本研究テーマに関する他の財団、機関等(文部科学省を含む)への重複応募(予定を含む)について記入。当財団より先に他機関の助成が決定された研究は、当財団の助成対象外となります。	
応募(予定)の有無	あり ⇒ 下欄に応募(予定)先の機関名を記入	
応募(予定)先の機関名	〇〇財団、〇〇振興会	
研究期間	翌々年度末(2028年3月末)まで【変更不可】	

※太枠内の白いセルに記入してください(黄色のセルは自動計算・自動転記されますので、記入しないでください)。内訳項目は1項目1行で記入し、項目数に応じて記入行を追加、削除してください。
 ※文字の大きさ(11ポイント)は変更しないでください。印刷時に文字が切れる場合は、セルの書式を「折り返して全体を表示する」にしたうえで、行幅を広げてください(列幅は変更不可)。

小計項目 内訳項目	金額(円)	構成比	具体的な内容・積算根拠と本研究における必要性 ※構成比の高い項目は特に具体的に記入
旅費 小計	450,000	45%	※行先・人数・日数・回数・目的(必要性)を明記
国内旅費	50,000		〇〇学会(開催地未定※)への参加、1人、2025年10月1日～3日。同学会において研究発表を行い、研究の質を高めるフィードバックを受けるため。新幹線往復3万円、宿泊費2泊3万円。※開催地未定のため、前回の開催地(大阪)をもとに積算
海外旅費	400,000		「〇〇conference 2026」への参加(開催地イギリス〇〇大学、日本発)、1名、3泊4日、1回。研究者・実務家からのフィードバックを得て研究をブラッシュアップするため。往復航空代25万円、滞在費15万円。
人件費・謝金 小計	140,000	14%	※委託・作業内容を明記
研究協力者謝金	60,000		意見交換のため〇〇研究所〇〇研究員を研究協力者として招聘する際の謝礼。打合せ2回×30,000円×1名。
研究補助者人件費	80,000		所属大学のRA人件費基準をもとに算出。仕事内容はデータ収集、パネル分析等。月40時間×2,000円×1ヶ月。
参考文献・資料購入 小計	70,000	7%	
書籍購入	70,000		〇〇に関する参考書籍5冊@14,000円想定。
英文校正・論文投稿 小計	100,000	10%	小計、内訳金額の両方に金額を入力 ※小計と内訳金額の合計が一致するようにしてください。
英文論文校正料	30,000		
投稿料	70,000		国際的な学術誌「〇〇」への投稿費用(1回、500USD≒70,000円)
PC・プリンタ等 小計	235,000	24%	※他用途でも使用可能なため、必要性を明記
PC	235,000		RAがビックデータ分析するため、現行のPCではスペックが十分でなく作業が困難なため高性能なPC(1台)が必要。PCは「品名・型番」を想定。
消耗品 小計	5,000	1%	
プリント用紙等	5,000		学会発表時に使用するプリント用紙等
その他 小計	0	0%	
			上記合計額と助成金額が一致するようにしてください。
上記合計額	1,000,000	100%	←「上記合計額」は、「助成希望額」と一致するようにしてください。
助成希望額	1,000,000	TRUE	

↑「K32」で申込書の助成希望額を円単位で自動転記(消さないでください)。

【研究】経歴書

[事務局使用欄] 受付番号 0000 00 0000

※文字の大きさ(11ポイント)は変更しないでください。印刷時に文字が切れる場合は、行幅を広げてください(列幅は変更不可)。

※記入欄(行)は、適宜追加、削除してさしつかえありません。

※記載順は問いません。また、以下の内容を充足するWebページが閲覧可能であれば、当該URLを記載することでもさしつかえありません。

【学歴】

(西暦)年月～年月	内容
19xx年4月～19xx年3月	全銀大学経済学部卒業 学士
19xx年4月～19xx年3月	全銀大学経済学部修士課程修了 修士

例1 経歴

(西暦)年月～年月	内容
20xx年4月～20xx年3月	〇〇大学経済学部 講師
20xx年4月～現在	全銀大学経済学部 准教授
WEBページ参照	https://www.～jp

直接記入または参照先URLを記入
(研究歴、助成歴・受賞歴も同様)

※URLを指定する際は、最新情報に
更新されているかご確認ください。

例2

【主な研究歴】

(西暦)年月～年月	内容
20xx年4月～20xx年3月	日本経済における～の分析
20xx年4月～現在	金融市場における～に与える影響
20xx年4月～現在	日米の～に関する研究

【主な助成歴・受賞歴】(当財団の助成歴、受賞歴を除く)

(西暦)年月～年月	内容
	なし 例1
20xx年10月～20xx年3月	〇〇財団 20xx年度研究助成 例2

【所属学会等】

〇〇学会、△△学会

【研究】主著

[事務局使用欄] 受付番号 0000 00 0000

※文字の大きさ(11ポイント)は変更しないでください。印刷時に文字が切れる場合は、行幅を広げてください(列幅は変更不可)。

※記入欄(行)は、適宜追加、削除してさしつかえありません。

※記載順は問いません。また、以下の内容を充足するWebページが閲覧可能であれば、当該URLを記載することでもさしつかえありません。

【直近5年間の主な著作】

	発表年(西暦)	タイトル・著者名・掲載誌名・巻号等の書誌情報
例1	2025年	金融市場における～、全銀太郎、全銀大学紀要(22)
	2021年	〇〇編著「日米の～与える影響」〇〇出版、第9章「国際通貨制度の～」担当189-210頁
例2		
	WEBページ参照	https://www.～.jp

・直接記入または参照先URLを記入
・直近5年間は2025～2021年公表分を記入

【直近5年より以前の主な著作】

	発表年(西暦)	タイトル・著者名・掲載
	2020年	日本経済における～に関する分析
	2019年	
	2013年	
	WEBページ参照	https://www.～.jp

※URLを指定する際は、最新情報に更新されているかご確認ください。